



決め手は、青森県産。

特産果樹生産情報第2号
(4月27日～5月31日)



平成31年4月26日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

**生育に合わせ適期作業を！
霜害防止対策と病虫害防除を万全に！！
結実確保に全力を!!!**

I 要約

- 3月下旬から4月上旬の気温が低めに推移したため、生育の進みは鈍化し、なしの発芽は平年よりも2～3日遅かった。その後4月中旬の気温が平年よりかなり高まったことから、その他の果樹の生育は、平年並みから平年よりも早まっている。
- 霜害を受けやすい時期のため、気象情報に十分注意し、霜害防止対策を必ず行う。
- 各樹種とも結実確保に万全を期す。
- おうとうの灰星病、もものせん孔細菌病などの病虫害防除や、各樹種とも管理作業は樹の生育に合わせて適期に行う。

II 生産情報

1 生育概況

3月下旬から4月上旬の気温が低めに推移したため、生育の進みは鈍化し、なしの発芽は平年よりも2～3日遅かった。その後4月中旬の気温が平年よりかなり高まったことから、その他の果樹の生育は、平年並みから平年よりも早まっている。

・ぶどう

「キャンベル・アーリー」の発芽日は、五戸（県南果樹部）で、無加温ハウス栽培が平年よりも4日早く、露地栽培が平年より5日早かった。「スチューベン」の発芽日は、黒石で平年よりも4日早かった。

・おうとう

「佐藤錦」の発芽日は、五戸、黒石とも平年より2日早かった。

・もも

「川中島白桃」の発芽日は、五戸で平年より1日早く、黒石で4日早かった。

・うめ

「豊後」の満開日は、五戸で平年より5日早かった。

・なし

西洋なしの発芽日は、五戸で「ゼネラル・レクラーク」が平年より2日、「ラ・フランス」が平年より3日遅かった。日本なしの発芽日は、「幸水」が平年よりも3日遅かった。

(1) ぶどうの生育ステージ

(4月25日現在)

品 種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日
スチューベン	五戸	本年	—	—	—	—	—	/
		平年	4.30	5.14	6.23	6.26	7.2	
		前年	4.28	5.13	6.21	6.23	6.30	
	黒石	本年	4.25	—	—	—	—	
		平年	4.29	5.9	6.18	6.21	6.29	
		前年	4.25	5.3	6.15	6.19	6.26	
キャンベル・アーリー (露地)	五戸	本年	4.24	—	—	—	—	
		平年	4.29	5.13	6.20	6.23	6.27	
		前年	4.23	5.7	6.19	6.21	6.25	
キャンベル・アーリー (無加温ハウス)	五戸	本年	4.12	—	—	—	—	3.22
		平年	4.16	4.29	5.28	5.30	6.5	3.23
		前年	4.10	4.27	5.31	6.3	6.7	3.23
	三戸	本年	4.8	4.21	—	—	—	3.19
		平年	4.5	4.14	5.13	5.16	5.19	3.15
		前年	4.3	4.15	5.15	5.17	5.21	3.19

注1) 場所は五戸がりんご研究所県南果樹部、黒石がりんご研究所、三戸が三戸町川守田（県生育観測ほ）、以下同様

2) 平年値は1999～2018年（20年間）の平均。ただし、スチューベンの黒石は2000～2018年（19年間）の平均、キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の五戸は2005～2018年（14年間）の平均

(2) おうとう、もも及びうめの生育ステージ (4月25日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
おうとう	佐藤錦	五戸	本年	4.21	—	—	—	—
			平年	4.23	5.3	5.2	5.4	5.15
			前年	4.19	4.29	4.27	4.28	5.11
		黒石	本年	4.21	—	—	—	—
			平年	4.23	5.5	5.1	5.4	5.15
			前年	4.20	4.30	4.27	4.29	5.10
もも	あかつき	五戸	本年	4.17	—	—	—	—
			平年	4.16	5.7	5.3	5.6	5.14
			前年	4.13	4.30	4.28	4.30	5.9
	川中島白桃	五戸	本年	4.17	—	—	—	—
			平年	4.18	5.8	5.6	5.9	5.18
			前年	4.13	5.1	4.30	5.1	5.15
黒石	五戸	本年	4.18	—	—	—	—	
		平年	4.22	5.10	5.5	5.7	5.16	
		前年	4.20	5.5	5.1	5.2	5.11	
うめ	豊後	五戸	本年	3.17	—	4.18	4.20	—
			平年	3.21	4.27	4.23	4.25	5.1
			前年	3.23	4.26	4.19	4.20	4.25

注) 平年値は1999～2018年（20年間）の平均。ただし、佐藤錦の黒石は2000～2018年（19年間）の平均、川中島白桃の五戸は2004～2018年（15年間）の平均、黒石は2003～2018年（16年間）の平均

(3) なしの生育ステージ (4月25日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
西洋なし	ゼネラル・レクラーク	五戸	本年	4.14	—	—	—	—
			平年	4.12	4.29	5.5	5.7	5.13
			前年	4.6	4.23	4.29	4.30	5.6
	ラ・フランス	五戸	本年	4.14	—	—	—	—
			平年	4.11	4.30	5.6	5.7	5.13
			前年	4.5	4.25	4.29	4.30	5.6
日本なし	幸水	五戸	本年	4.16	—	—	—	—
			平年	4.13	5.2	5.6	5.8	5.17
			前年	4.7	4.30	4.29	4.30	5.10

注) 平年値は1999～2018年（20年間）の平均

2 霜害防止対策

これからの時期は霜害を受けやすいので、気象情報に十分注意し、危険と考えられる場合は必ず対策を行う。

降霜は一般に晴天無風で、午後7時の気温が6℃以下の日の翌朝に発生しやすい。

(1) 防霜ファンによる防止

温度検知器は、地上1.5mに設置し、防霜ファンの始動温度を2℃に設定する。

寒気を伴ったときや著しく低温になったときは、防止効果が小さいので燃焼法を併用する。

(2) 燃焼法による防止

燃焼法を利用する場合は、「火災と紛らわしい煙または火災を発生する恐れがある行為の届出書」などを所轄の消防署に提出する。

燃焼資材はあらかじめ園地内に配置しておき、気温が0℃になったら点火する。

①霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）

霜カット2kgを缶または袋に入れ、10a当たり40～60個配置する。

②A重油

40缶を利用する場合、10a当たり30缶以上を配置する。

なお、灯油等の保管については、保管量が200ℓ以上～1,000ℓ未満の場合は「少量危険物貯蔵届出書」の提出、1,000ℓ以上の場合は「危険物取扱者」の資格が必要である。

(3) ハウスぶどうの対策

石油ストーブなどの暖房器具を用いて、ハウス内が0℃以下になる場合は、加温する。

3 作業の重点

(1) ぶどう

ア 露地

(ア) 摘芽、摘梢

養分の競合を防ぐため、摘芽、摘梢はできるだけ早めに行う。樹勢が強い場合や降霜の恐れがあるところでは軽く行い、結実が確保された後や降霜の心配がなくなってから、花穂の発育の良い中庸な新梢を残して必要な結果枝数を確保する。

結果枝の目標本数は、列間2.5mの場合、スチューベン、キャンベル・アーリーとも主枝1m当たり8～10本とする。

(イ) 摘心（1回目）

開花1週間前頃に行う。下表に従い、品種や樹勢に応じた摘心を行う。

品種別摘心方法（1回目の摘心）

品 種	樹勢	摘心部位	副梢の取り扱い
スチューベン	強	第1花穂上位5枚	①すべての副梢を欠いた後発生した先端の副梢を残す。
	中		②上位1本の副梢を残し、下位の副梢は摘除する。 注)を参考に①か②を選択する。
	弱	第1花穂上位5枚	上位2本の副梢を残す。
キャンベル・アーリー		第1花穂上位3~4枚	上位2本の副梢を残す。
シャインマスカット		第1花穂上位5枚	上位1本の副梢を残す。

注) 副梢の取り扱い（スチューベン）

①では、着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり、熟期が遅れる。

②では、品質、着色は良くなるが、着粒密度がやや劣る。

(ウ) 花穂の整形

開花5日前頃から1~2花咲き始める時が適期である。

キャンベル・アーリーでは、岐肩、岐肩下の長い支梗や、支梗と支梗の間隔が広い場合は、上の支梗を除去し、花穂先端を切り詰める。

スチューベンは岐肩のみを切除する。

シャインマスカットは、正常な花穂では、先端4cmを残す。ただし、先端が二股などの異常花穂を利用しなければならない場合は、①先端を一つにする、②分岐部分まで切り詰める、③岐肩下の4cm程度の支梗に切り替えて利用する、のいずれかの方法で整形する。

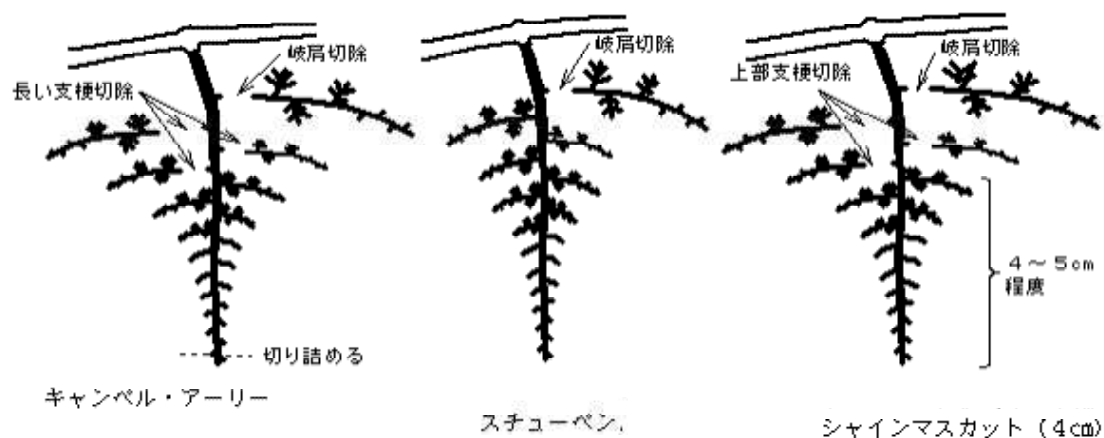


図 花穂の整形方法

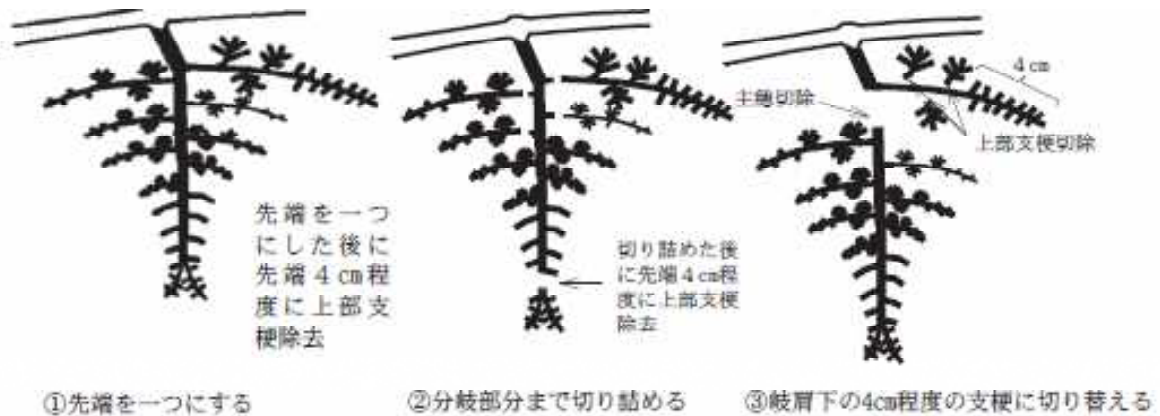


図 シャインマスカット異常花穂への対応の仕方

イ 無加温ハウス

(ア) 摘芽、摘梢

養分の競合を防ぐため、摘芽、摘梢はできるだけ早めに行う。樹勢の強い樹では、花振るいの心配があるため軽く行き、結実を確保してから最終結果枝数を決める。

最終的な結果枝数は、列間2.5mの場合主枝1m当たり8～10本を目安とする。

(イ) ハウス内の温度管理

高温による花振るいを防止するため、日中の温度は25℃を目標とし、30℃以上にならないように徹底して換気する。

(ウ) 1回目の摘心（実止まりを良くする摘心）

開花1週間前頃に行う。

キャンベル・アーリーでは、第1花穂の上位3～4枚で摘心し、上位2本の副梢を残す。

その他の品種では、第1花穂の上位5枚で摘心し、上位1本の副梢を残す。

(エ) 花穂の整形

開花5日前頃から1～2花咲き始める時が適期である。

キャンベル・アーリー、シャインマスカットは、露地栽培に準ずる。

シャインマスカットではストレプトマイシン処理に先立ち、開花始め頃までに花穂の先端を4cm残して整形する。

(オ) ジベレリン処理（シャインマスカット）

無種子化を確実にするため、次の手順に従って処理を行う。

<手順>

① ストレプトマイシン処理

満開予定日14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。

② ジベレリン処理

ジベレリン処理は、必ず花穂の先端まで開花してから行う。

②-1 ジベレリン2回処理の場合

1回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液にフルメット液剤(5ppm)を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで咲ききった時である。

2回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

②-2 ジベレリン1回処理の場合

満開3～5日後(落花期)に、ジベレリン25ppm溶液にフルメット液剤(10ppm)を加用した溶液に花房浸漬する。



図 シャインマスカットの満開時の花穂

ウ 病虫害防除

「新梢伸長期(約20cm)」以降、灰色かび病やべと病、黒とう病等の重要な防除時期になるので、各病害に対する有効薬剤を選択し、遅れないよう適期に薬剤散布を行う。

(ア) 薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
新梢伸長期 (約20cm)	ホリキシンAL水和剤 500倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	パダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	200ℓ
開花10日前頃 (6月上旬)	アリエッティC水和剤 800倍 又はオツサイト水和剤80 800倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	250ℓ

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
新梢伸長期 (約20cm)	ジマンタイン水和剤 1,000倍 又はポリキシナL水和剤 500倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	パダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロシリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2000
開花10日前頃 (6月上旬)	アリエッティC水和剤 800倍 又はキノトール水和剤40 600倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロシリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500

注1) アリエッティC水和剤は殺虫剤と組み合わせる場合、最後に調合する(物理性の悪化)。

2) DMI (EBI) 剤(インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル)は薬剤耐性の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。

(イ) ツマグロアオカスミカメ対策

発生の多い園地では、「展葉直前(5月上旬)」にモスピラン顆粒水溶剤2,000倍を特別散布する。

(2) おうとう

ア 結実確保

結実を確保するために、毛ばたきやマメコバチなどによる授粉を積極的に行う。なお、天候が不順の場合はマメコバチに頼らず、毛ばたき授粉をこまめに行う。授粉樹が少ない園地では花粉を採取し、花粉交配機(ラブタッチ)などで授粉する。

イ 摘果

着果が多すぎて品質の低下が懸念される場合は摘果を行う。

摘果は生理的落果が終わり、実止まりが確認された後(目安:果実横径が佐藤錦、ジュノハート、南陽では10mm以上、紅秀峰では8mm以上)にできるだけ早く行い、満開後30日後頃までには終える。

1花束状短果枝当たり2~3果に制限することで、果実肥大が促進し、着色が良くなる。摘果する果実は、障害果や病虫害被害果、肥大の劣るものを優先して行う。



図 摘果する果実

ウ 摘心

樹勢が強く新梢伸長が旺盛な場合は、樹勢の抑制や樹冠内の明るさを保つために摘心を行う。摘心時期は満開後3～4週間とし、摘心方法は新梢基部の葉を5枚程度（新梢の基部1～2cm程度）残して切る。

摘心は側枝の背中から伸びた強い新梢や、主枝または側枝の延長枝と競合する新梢に対して行う。

エ 病虫害防除

灰星病（花腐れ）防止のため、「満開5日後頃」の薬剤散布は遅れないよう適期に行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
開花直前	ホソイト水和剤80 800倍	—————	4500
満開5日後頃	パースト顆粒水和剤1,500倍 又はホソイト水和剤 2,000倍 又はラリー水和剤 2,000倍 又はホソイト水和剤 3,000倍	—————	5000
満開12日後頃	ホソイト水和剤80 800倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍	5000
満開25日後頃	ホソイト水和剤80 800倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍	5000
満開35日後頃	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はアンビルフロアブル 1,000倍 又はホソイト水和剤 2,000倍	テルスターフロアブル 4,000倍 又はエクシレルSE 2,500倍	5000

注) 「満開35日後頃」に紅さやかななどの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

(イ) カメムシ類対策

「満開12日後頃」と「満開25日後頃」に発生がみられた場合、オウトウハマダラミバエ対策でアディオフロアブル2,000倍を使用すると、防除剤は必要ない。「満開35日後頃」に発生がみられた場合、オウトウショウジョウバエ対策でテルスターフロアブルを使用すると、防除剤は必要ない。

(3) も も

ア 結実確保

花粉が少ない川中島白桃などの品種では、毛ばたきや梵天、花粉交配機による人工授粉を必ず行い、結実を確保する。授粉作業は晴天無風の午前中が最適である。

イ 摘果

摘果は生理的落果を考慮して、満開20～30日後頃とその10～20日後頃の2回に分けて行う。

1回目の摘果は、横向きから下向きに着生した大きめの果実を残す。残す果実数は仕上げ摘果終了時の2倍程度とする。2回目(仕上げ)の摘果は、短果枝(10cm以下)では4～5本に1果、中果枝(10～30cm)では1本に1果、長果枝(30cm以上)では長さによって1～3果とする。

なお、満開44～75日後頃の硬核期(果実の肥大が鈍化し、核が硬化する時期)に過度な摘果を行うと、核割れや裂果を起こしやすいので注意する。

ウ 芽かき

新梢が15cm以下の時期(5月下旬頃)に、剪定の切り口付近や上側の芽など強くなりやすいものを早めに基部からかき取る。成木の太枝は日焼けを起こしやすいので、背中側から発出した勢力の強くない新梢は残す。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
開花直前	ICボルドー412 30倍	—————	300ℓ
落花10日後頃	アグリマイシン-100 1,500倍 又はアグレプト水和剤 1,000倍	ダイジノン水和剤34 1,000倍 又はダースバンDF 3,000倍	300ℓ
	チウラム水和剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍		

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花20日後頃	マイコシールド 2,000倍 又はスター水和剤 1,000倍 (落花20日後頃～落花40日後頃に1～3回)	ダイジノン水和剤34 1,000倍 又はダースバンDF 3,000倍	4000
	ダコニール1000 1,000倍 又はチウラム水和剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍		

注1) チウラム水和剤 (チオノックフロアブル、トレノックフロアブル)

2) 水和硫黄剤 (サルファーズル、イオウフロアブル)

(イ) せん孔細菌病対策

昨年発生が多かった園地では、薬剤散布や強風対策、枝病斑の処分など総合的に対策を実施する。

風を強く受ける地帯で多発するので、防風網の設置などの耕種的対策は必ず行う。春型枝病斑は、葉や果実への伝染源となるので見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。「開花直前」～「落花40日後頃」は、重要な防除時期なので、遅れないように適期に薬剤散布を行う。



図 せん孔細菌病
春型枝病斑 (落花後)

(4) なし

ア 摘花

2～4番花を残し、他の花は摘み取る。

イ 結実確保

マメコバチによる授粉を基本とし、開花期間中の天候が不順な場合やマメコバチの数が不足している園地、霜害を受けた園地は、結実確保のため人手授粉を行う。その際、果形の揃いや品質が良い2～4番花に授粉する。



図 なしの開花順序

ウ 摘 果

受精が不完全な果実は、落花5日後頃から果柄が黄化し始めるので、予備摘果は落花5日後頃から開始し、2～4番果のうち肥大、形の良い1果を残す。

主枝、垂主枝の延長枝、枝ずれを起こすような位置や上向きの果実は全て摘果する。

仕上げ摘果は、落花15日後頃から始め、遅くとも落花25日後頃までに終わる。

適正な着果程度は、幸水で3～4頂芽に1果、ゼネラル・レクラークで5.5～7頂芽に1果、ラ・フランスで4頂芽に1果とする。

エ 芽かき

芽かきは、5～10cm伸びたところの新梢がかき取りやすいので、5月下旬頃までに早め実施する。また、授粉時や摘果期にも不要な新梢が伸び出したら、その都度かき取る。ただし、側枝として使用できる新梢は残す。

オ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布 (西洋なし)

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花直後	オーソサイド水和剤80 800倍 又はDMI (EBI) 剤	エルサン水和剤40 800倍	3500
落花10日後頃	オーソサイド水和剤80 800倍 又はデランフロアブル 1,000倍	エルサン水和剤40 800倍 又はダイジロン水和剤34 1,000倍	3500
落花20日後頃	オキシラン水和剤 500倍 又はベフキロン水和剤 1,000倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍	4000

注) DMI (EBI) 剤：ルビゲン水和剤4,000倍、スコア顆粒水和剤4,000倍 (黒斑病対策では2,000倍)、ラリー水和剤2,000倍、アンビルフロアブル1,000倍、トリフミン水和剤3,000倍

(イ) 黒星病対策 (フレミッシュ・ビューティ)

「開花直前」にDMI (EBI) 剤を特別散布し、「落花10日後頃」には基準薬剤に代えて、DMI (EBI) 剤を使用する。例年発生が多い園地では、「落花10日後頃」にジマンダイセン水和剤600倍も使用する。

(ウ) 黒斑病対策 (ゼネラル・レクラーク)

「落花直後」にスコア顆粒水和剤を2,000倍で使用し、「落花10日後頃」にデランフロアブルを選択する。

(エ) 輪紋病対策

発病枝は伝染源となるので見つけ次第、切り取って処分するとともに、枝幹部のいぼ病斑は孢子飛散の始まる5月下旬までに削り取り、トップジンMペーストを塗布する。

(オ) ナシキジラミ、ナシミハバチ対策

発生が多い園地では、「落花10日後頃」にエルサン水和剤40を選択する。

(5) うめ・あんず

ア 摘果

着果過多になると、小玉で玉揃いが不良となり品質低下を招く。このため、果実が小指大の大きさの時期（満開20～25日後頃）に、収穫期に互いに触れ合わない程度の間隔に摘果する。

着果程度は、豊後や節田などで3～5cmに1果、八助などの大玉品種で5～6cmに1果である。

イ 病虫害防除

黒星病等防止のため、薬剤散布は遅れないよう適期に行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花直後	ホシザイン水和剤 3,000倍	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	3000
落花10日後頃	ホソバト水和剤80 800倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍 又はファイブスター顆粒水和剤 2,000倍	3500
落花20日後頃	ホソバト水和剤80 800倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍 又はスカウトフロアブル 2,000倍	3500
落花30日後頃	ホソバト水和剤80 800倍 又はイウフロアブル 500倍	—————	3500

(6) 核果類共通（おうとう、もも、うめ・あんず、すもも、ネクタリン）

コスカシバ対策として、成虫発生前の5月中～下旬に交信攪乱剤のスカシバコンLを40～100本/10 a 設置する。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

黒星病徹底防除推進期間中（4月～6月）、放任園等発生防止強化月間（5月）

りんご黒星病の撲滅に向け、適期適量散布による薬剤防除に加え、菌密度を下げるための落葉処理等の耕種的防除にも取り組みましょう。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 果樹共済や農業経営収入保険に加入しましょう！ 》

○果樹共済（ぶどう、もも）

「果樹共済」は、風・ひょう・霜などの自然災害等により損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

○農業経営収入保険

平成31年から新たに始まった「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

青森県農薬危険防止運動が5月1日から始まります！

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

霜害対策を万全に！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

山火事などの火災の発生防止に努めましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第3号は5月31日(金)発表の予定です。

連絡先	： りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	： 017-722-1111 代表 内線 5092, 5097 017-734-9492 直通